

北海道教育委員会教育長 様

北海道帯広三条高等学校長 合 浦 英 則

次のとおり令和6年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

授業改善による学力向上 ～「学びの3乗プラン」の推進
 (1) 主体的な学びによる学力の向上と進路実現
 (2) 生徒の自主・自律を柱とする人間性を育む教育の充実
 (3) 地域と協働した探究活動による学びに向かう力の育成

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	ICTを活用した授業改善・個別最適な学習の推進を更に模索し、学校全体としてスキルアップを図る必要がある。	Google クラウドを活用した学習課題配信や、スタディサプリをはじめとするICTの活用を積極的に進め、更なる授業改善に向けた取組を展開してほしい。
改善方策	「指導と評価の一体化」を教職員全体で共通理解を図り、それを基に授業改善を進めていくように努める。そのためには各教科の研修を充実させ、その研修内容を全体共有することで、組織的に取り組んでいく。	
生徒指導	外部機関（警察やサポートセンター）と積極的に連携し、未然予防及び相談活動を充実させ、各年次や生徒支援部と連携した粘り強い取組が継続できた。	主体性を育む教育活動の充実を図ってもらいたい。生徒指導に係る教員の自己評価は低く出ているように感じる。
改善方策	ネットやSNSの利用法及びその危険性など、生徒の内面に寄り添った教育を推進しながら、外部機関と連携した取組を今後も継続し、各年次・生徒指導部・生徒支援部と連携しながら推進する。	
進路指導	大学入試の多様化に対応した進路指導を実現させるためにも、校内での各分掌との連携を構築し、分掌と年次が協働しながら、生徒個々の目標を明確にさせた上での進路指導の実現を目指す。	大学入試の多様化に対応できるよう各種研究会等に積極的に参加して、探究活動の更なる充実を目指してほしい。外部人材を活用した探究的な学びの実現は素晴らしい。
改善方策	探究活動コンソーシアムや全国同窓生からなるメンターを有効活用して、大学入試の多様化に対応できる体制を構築していく。また、教科横断的な探究活動を進めることでキャリア教育の充実へとつなげていく。	
健康・安全指導	生徒支援部を中心に、課題を抱える生徒に対する情報交換や外部機関との適切な連携を図ることができた。	支援を必要とする生徒への対応は、今後も引き続き、生徒支援部を中心に、組織的かつ丁寧に対応してもらいたい。
改善方策	生徒支援の観点からスクールカウンセラーとの連携を強化しながら推進する。	
信頼される学校づくり	ホームページの利用と活用が改善された。情報発信を引き続き進めたい。	職員自己評価についての検証を続けながら、社会に開かれた学校づくりを進めてほしい。
改善方策	学校評価のPDCAを適切に職員に環流し、年度当初の学校経営方針に到達目標をできるだけ具体的に定め、定期的に確認しながら、検証と改善を継続していく。	
組織運営	「シフト制」が定着し、「働き方改革」に向けた教職員全体の意識を高めることができた。今後も引き続き、「コアチーム」を中心とした組織的な取組が必要である。	部活動の時間の短縮については進んでいると感じる。文武両道を謳っている学校としては非常に難しいと思うが、今後も継続して「働き方改革」を推進してほしい。
改善方策	働き方改革の意図を適宜確認し、「複数担任制」や「シフト制」「複数顧問配置」等の良さを活用しながら、業務の抜本的な見直しによる平準化を推進する。	
公表方法	学校Webページに掲載すると共に、学校評議員会及びPTA役員会等で周知する。	

3 添付資料

- (1) 令和6年度 職員自己評価
- (2) 令和6年度 保護者学校評価アンケート結果
- (3) 令和6年度 学校関係者評価

令和6年度 学校評価(職員自己評価)

領域	対象	今年度の目標	達成のための観点	通し番号	評価内容	R5	R6
目標設定	重点目標	授業改善による学力向上 ～「学びの3乗プラン」の推進 1 主体的な学びによる学力の向上と進路実現 2 生徒の自主・自律を柱とする人間性を育む教育の充実 3 地域と協働した探究活動の推進		①	本校の教育内容は生徒の実態や保護者、地域の期待や要望を踏まえたものとなっている。	3.2	3.2
教育目標	学習指導	○学力の向上に向けた各教科での情報共有と蓄積～三条スタンダードの構築 ○「主体的・対話的で深い学び」の推進する授業の質的転換・向上 ○ICTを活用した授業改善・個別学習の推進 ○新学習指導要領並びに新しい大学入試に係る研修の推進と授業改善	□各教科内で情報交換を進め、教材の共有を図れたか。 □コンピテンシーを意識した上で「主体的・対話的で深い学び」を進める指導に取り組むことができたか。 □ICTを活用し個別学習を推進することができたか。 □教科指導に係る研修を進め、授業改善につながったか。	②	各教科内で情報の共有を進め、効率的な教材研究をする。(個)	3.3	3.1
				③	「主体的・対話的で深い学び」への授業改善を進める。(個)	3.1	3.1
				④	ICTを活用した授業(視聴覚機器の使用、スタディサプリの活用を含む)に取り組む。(個)	3.0	3.0
				⑤	授業改善に向けた研修に取り組む。(個)	3.2	3.1
				生徒指導	○教職員と生徒相互の信頼を基盤にした開発的・予防的生徒指導の推進 ○他者を尊重し、いじめを許さない態度の育成 ○生徒の自主・自律を促す取組及び生徒会の主体的な活動推進 ○文武両道を基本とする中での各種活動の推進	□アセスメントに基づく生徒理解をベースに、生徒一人ひとりに指導や支援を展開できたか。 □他者を尊重し、いじめを許さない態度育成のための具体的な取組(人権教育、ネットリテラシー含む)がなされたか。 □生徒の自主・自律を促す取組が組織的・意図的になされたか。 □生徒の主体的活動を進めつつ時間の有効活用を進めることができたか。	⑥
	⑦	人権教育やネットリテラシー等(いじめ防止も含む)の定着に取り組む。(いじめ防止も含む)(個)	3.2				3.2
	⑧	生徒の自主・自律を促す取組を組織的にする。	3.0				2.9
	⑨	生徒の主体的活動を進めつつ時間の有効活用を進める。(個)	3.0				2.9
	進路指導	○3年間を見通した組織的・系統的な進路指導体制の確立 ○単位制の特色を活かした進路指導の推進 ○地域と協働した探究活動プログラムの構築	□生徒、保護者と担任、年次、進路指導部と連携した進路指導ができたか。 □各年次での個々の目標を明確にさせた上で進路指導を実施したか。 □探究活動コンソーシアムを中心に、外部人材を有効に活用できたか。	⑩	生徒、保護者と担任、年次、進路指導部と連携した進路指導をする。	3.2	3.1
				⑪	個々の目標を明確にさせた上で進路指導を実施する。(個)	3.0	3.0
				⑫	探究的な学びを推進するために外部人材を有効活用する。	3.2	3.1
	健康安全指導	○生命を尊び、他を思いやる心と健康な心身を保持・向上する態度の育成 ○健康と安全に関する自己管理能力の育成 ○生徒に関する日常的な情報提供・共有と組織的な支援 ○教職員の心身の健康が保たれる勤務環境の整備	□各教育活動で意識向上や態度の育成を図ることができたか。 □各種訓練や体験的な学習を通して、自己管理能力の向上が図れたか。 □生徒支援部を中心に適切な情報提供と支援がなされたか。 □働き方改革への実効性のある具体的な取り組みができたか。	⑬	生命の尊厳と自己管理の大切さを説く指導を日常から行う。	3.1	3.0
⑭				問題を抱える生徒に対し、校内での情報交換や外部機関と適切な連携を図る。	3.2	3.1	
⑮				働き方改革の意図を理解し、自らも意識して取り組む。(個)	3.0	2.9	
学校運営	信頼される学校づくり	○地域や保護者への教育成果の周知及び普及 ○地域と連携した教育活動の推進 ○学校評価に基づく改善の検証	□学校と保護者をつなぐメール配信やHP等を使った情報発信が学校全体としてできたか。 □地域人材を活用した教育活動がなされたか。 □前年度の学校評価に立脚した取り組みを行ったか。	⑯	情報発信と地域交流のため、学校ホームページ等を有効に活用している。	3.0	3.0
				⑰	学校課題の解決のため、前年度の学校評価に立脚した取り組みを行う。	3.0	2.9
	組織運営	○学校課題の明確化と目指すべき姿の共有化 ○個々の能力を発揮できる役割分担と協働体制の確立	□学校経営計画に基づく分掌経営計画等が作成され、評価活動を適切に行なったか。 □教員理解に基づいた役割分担と協働体制が構築できたか。	⑱	学校課題と目指すべき姿を共有し教育活動に向かう。	3.1	3.0
				⑲	教員理解に基づいた役割や業務分担ができています。	3.2	3.0
				⑳	教員間の情報共有と協働する雰囲気を作る。	3.1	3.1
				㉑	管理職から教職員への適切な指示と情報伝達がなされている。	3.3	3.3
	教職員の資質向上	○新カリへの対応、授業力向上のための校内研修の実施 ○研修体制の充実 ○服務規律・法令遵守の継続的啓発	□校内研修が計画的に行われ、実践に結びつけることができたか。 □各種研修・研究会に積極的に参加したか。また組織として研修に参加しやすい形態の工夫がなされたか。 □服務規律・法令遵守の啓蒙活動がなされたか。	㉒	新カリへの対応、授業力の向上に向けた校内研修を実施する。	3.2	3.0
				㉓	積極的に研修に参加し、自らの資質・能力を高める。(個)	3.1	3.0
㉔				服務規律・法令遵守に努める。(個)	3.7	3.5	

令和6年度 帯広三条高校 学校評価アンケート（保護者）結果

A：十分（そう思う） B：おおむね十分（だいたいそう思う） C：不十分である（あまり思わない）
D：改善を要する（全く思わない） E：よくわからない

（A=4、B=3、C=2、D=1として評価の平均値）

No	評価結果	今年度 (昨年度)
1	本校の教育内容は、生徒や保護者の期待や要望に応えている。	3.1 (3.1)
2	生徒の主体的な学びにつながる授業を行い、学力の向上を図っている。	3.1 (3.1)
3	学習と部活動を両立させる適切な指導が行われている。	3.0 (3.1)
4	他を思いやりいじめのない公平公正な行動のできる生徒を育成している。	3.1 (3.1)
5	生徒の主体的な活動を促し、自主自律の態度を養っている。	3.2 (3.1)
6	生徒理解を基に家庭と連携して組織的な生徒指導や生徒相談が行われている。	3.0 (3.0)
7	生徒の進路意識を高め、生徒自らが進路選択できるよう指導している。	3.2 (3.2)
8	ホームページ、学校通信「木蔭静けく」、学年通信などを活用して、学校の教育活動や情報を積極的に発信している。	3.1 (3.0)
9	健康と安全に関する教育が適切に行われている。	3.1 (3.1)
10	本校に入学させて良かった。	3.4 (3.4)

回答数 184 / 704 (26.1%)

令和6年度 学校関係者評価（学校評議員）

北海道帯広三条高等学校

評価方法について

→教職員による自己評価の適切さについて、自己評価結果を参考に、右の欄「自己評価の適切さ」にA・B・C・Dの四段階で評価してください。

評価の基準	A（適切な評価である）	B（ほぼ適切な評価である）
	C（やや不適切な評価である）	D（不適切な評価である）

なお、教職員の自己評価は4段階（4:そう思う、3:どちらかというと思う、2:どちらかというと思わない、1:そう思わない）で評価しています。

	教職員による自己評価結果		自己評価の適切さ
	評価平均	項目評価平均	
1 目標設定について	評価平均	項目評価平均	自己評価の適切さ
① 本校の教育内容は生徒の実態や保護者、地域の期待や要望を踏まえたものとなっている。	3.2	3.20	3.3
2 学習指導について	評価平均	項目評価平均	自己評価の適切さ
② 各教科内で情報の共有を進め、効率的な教材研究をする。(個)	3.1	3.07	3.0
③ 「主体的・対話的で深い学び」への授業改善を進める。(個)	3.1		
④ ICTを活用した授業（視聴覚機器の使用、スタディサプリの活用を含む）に取り組む。(個)	3.0		
⑤ 授業改善に向けた研修に取り組み。(個)	3.1		
3 生徒指導について	評価平均	項目評価平均	自己評価の適切さ
⑥ 生徒理解をベースに、生徒一人ひとりに指導や支援をする。(個)	3.1	3.02	3.0
⑦ 他者を尊重し、いじめを許さない態度育成（人権教育、ネットリテラシー含む）に取り組む。(個)	3.2		
⑧ 生徒の自主・自律を促す取組を組織的にする。	2.9		
⑨ 生徒の主体的活動を進めつつ時間の有効活用を進める。(個)	2.9		
4 進路指導について	評価平均	項目評価平均	自己評価の適切さ
⑩ 生徒、保護者と担任、年次、進路指導部と連携した進路指導をする。	3.1	3.06	3.0
⑪ 個々の目標を明確にさせた上で進路指導を実施する。(個)	3.0		
⑫ 探究的な学びを推進するために外部人材を有効活用する。	3.1		
5 健康・安全指導について	評価平均	項目評価平均	自己評価の適切さ
⑬ 生命の尊厳と自己管理の大切さを説く指導を日常から行う。	3.0	3.00	3.0
⑭ 問題を抱える生徒に対し、校内での情報交換や外部機関と適切な連携を図り、適切な情報提供と支援を行う。	3.1		
⑮ 働き方改革の意図を理解し、自らも意識して取り組む。(個)	2.9		
6 信頼される学校作りについて	評価平均	項目評価平均	自己評価の適切さ
⑯ メール配信や学校ホームページ等を有効に活用し、情報発信を行う。	3.0	2.95	3.3
⑰ 学校課題の解決のため、前年度の学校評価に立脚した取り組みを行う。	2.9		
7 組織運営について	評価平均	項目評価平均	自己評価の適切さ
⑱ 学校課題と目指すべき姿を共有し、教育活動に向かう。	3.0	3.10	3.0
⑲ 教員理解に基づいた役割や業務分担ができています。	3.0		
⑳ 教員間の情報共有と協働する雰囲気を作る。	3.1		
㉑ 管理職から教職員への適切な指示と情報伝達が行なわれている。	3.3		
8 教職員の資質向上について	評価平均	項目評価平均	自己評価の適切さ
㉒ 新カリへの対応、授業力の向上に向けた校内研修を実施する。	3.0	3.16	3.3
㉓ 積極的に研修に参加し、自らの資質・能力を高める。(個)	3.0		
㉔ 服務規律・法令遵守に努める。(個)	3.5		

その他ご意見等があればご記入ください。

ご協力ありがとうございました。